

こちらは先週から一気に真夏のような毎日が続いています。毎年、学校が夏休みに入る直前の日曜日は、教会の周辺で「教会通りのバザー」が開催されます。これをもつていよいよドイツ人が大好きな夏のバカンスの始まりです。6月18日にコロナ禍以来三年振りに再開し、私たちの教会は、焼きそば、押しずし、のり巻きを販売しました。そろそろ80歳を迎えようとしている姉妹方が前日から疲れをいれとわず喜んでご奉仕してくださるのは、信仰と共に実に大きな賜物だと思われています。教会の方々とこのような機会を通して社会貢献できる幸いを思いながら過ごした一日でした。

今月はもう一つ、教会外での大きな行事がありました。私は6月7～11日迄、首相や要人が臨席される国を挙げての教会の大きなイベント「第38回キルヘンターク・プロテスタント教会大会」に参加させて頂きました。この大会はエキュメニズムの取り組みの一つで、1949年に設立されドイツの州で隔年開催されています。今年はミュンヘン近隣のドイツ中南部バイエルン州ニュールンベルクで行われました。

今回のテーマである「今がその時」「時は成就した!!」(マルコによる福音書1章15節)に基づき、毎日8時～22時30分まで、市内の2000の会場で聖書研究や討論会等の集会、賛美、祈りコンサート等、2500もの豊富なプログラムが用意されていました。自分で興味あるプログラムを見つけて、各自で会場まで行きます。便利なGoogleアプリを利用して電車やバスで移動しますが、それでも分からない時は、ガールスカウトやボーイスカウト等の若い方々が案内役として奉仕しており、親切に教えてくれます。

印象に残ったのは、南アフリカ出身の黒人牧師の閉会礼拝でのメッセージでした。気候危機、戦争、人種差別等の課題に対して、「私たちは皆、最後の世代なのです、待つのではなく、実行せよ」と、課題に勇気を持って立ち向かうようにと呼びかけるものでした。他の礼拝でも、「聖書・賛美・沈黙」を繰り返し、自分が今、何ができるか、ということを考えさせられる多くの時が与えられました。

滞在中、ドイツ人宅にホームステイさせて頂いたお家の方は、初めて日本人に接した方でしたが、同じ信仰者としてすぐに受け入れてくださいました。色々トンチンカンなことをやらせた私でしたが、寛容な心で受けとめて頂き、私の心はとても穏やかに過ごすことができました。更に会場で出会った方々、一緒に賛美した方々等、沢山の一期一会を私の人生の一コマとして大切にしていきたいと思っています。そしてこの経験をどこかで生かしていくことができればと願っています。

ホームページにはドイツの様子ที่わかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。<http://www.komatsugawa-ch.com/Pfarrerin-Ryokosasaki/mailmagazine.html>

本会場からモニターで中継

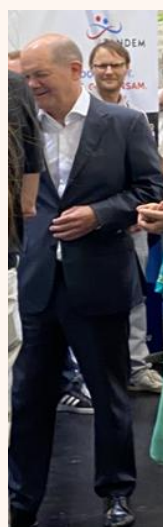
閉会礼拝メッセージ
クイントン・シーザー牧師



ミュンヘンの教会の方が出演したコンサートに、日本からサバティカルでいらしている先生ご夫妻と参加



聲啞の方と手話と一緒に賛美



現在の首相オラフ・シヨルツ氏
国民にとっても身近に感じられる方です!!

教会通りのバザー
焼きそば
海苔巻き&押しずし

